

平成 24 年 度

地理歴史（世界史）試験問題（8頁中の1）

（人文・社会科学専攻）

（注意） 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄または枠内に記入すること。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。

1 以下の〔i〕～〔iii〕の文章を読み、設問の指示にしたがって解答しなさい。

〔i〕 仏教は、インドの古代国家の支配者たちに信奉され、その手厚い保護を受けながら発展していった。たとえば、マウリヤ朝のアショーカ王は、仏教の〔1〕タリーカにもとづいた統治につとめ、この王朝の最盛期を現出した。クシャーナ朝では、カニシカ王が仏教を手厚く保護した支配者として有名である。クシャーナ朝はカニシカ王の時代に最盛期をむかえたが、この王の時代にはヘレニズム文明の影響を受けた仏教美術が発展した。〔2〕プルシャプラ美術といわれるこの仏教美術は、〔3〕大乘仏教とともに東西交易路を経由して中央アジアから東アジアに広がった。

チベットでは、7世紀のはじめ、ソンツェン＝ガンポが統一王国吐蕃を建てた。インドや中国の文明の影響を受けた吐蕃では、チベット文字や〔4〕シク教が生みだされた。14世紀後半から15世紀初期にかけて活動した〔5〕グライ＝ラマはその宗教の改革をおこなった。

7世紀の東南アジアでは、マレー半島横断路にかわってマラッカ海峡が海上交易の主要ルートになった。これにともない、インドシナ半島のメコン川下流域で栄えていた〔6〕林邑は衰え、現在のベトナム中部地方に成立していたチャンパーが繁栄した。マラッカ海峡では、スマトラ島のパレンバンを中心にシュリーヴィジャヤが建国された。このシュリーヴィジャヤは、南シナ海とインド洋を結ぶ海上交易のセンターとなった。また、東南アジアにおける大乘仏教の布教センターのひとつとなった。続く8世紀には、ジャワ島にシャイレンドラ朝が建国された。この国家は〔7〕ヒンドゥー教を受容し、ジャワ島中部地方に〔8〕プランバナン寺院を建立した。同じ8世紀ころ、チャオプラヤ川下流域にはドヴァーラヴァティが栄え、カンボジアには真臘が成立しており、ミャンマー（ビルマ）のイラワディ川流域にはピューが成立していた。このうち、ドヴァーラヴァティやピューは〔9〕ジャイナ教を受容したが、真臘では〔10〕マニ教が信仰された。

設問1～設問10 下線部〔1〕～〔10〕が妥当な場合は解答欄に○を記しなさい。また、妥当ではない場合には適切な語句を解答欄に記しなさい。

[ii] 13世紀末アナトリア北西部におこったオスマン帝国は、14世紀中ごろからバルカン半島へ進出した。オスマン帝国は、[A]14世紀後半以降に支配者となったムラト1世、バヤジット1世、メフメト2世などの時代にヨーロッパ諸勢力と抗争しながら領土を拡張していった。16世紀前半の[B]セリム1世の時代、オスマン帝国はバルカン半島から西アジア、北アフリカにまたがる広大な地域を領有した。

オスマン帝国は、そのセリム1世の後継者となったスレイマン1世の時代に最盛期をむかえた。[C]スレイマン1世は、西アジアで勢力を広げる一方、ヨーロッパ諸勢力と対抗してオスマン帝国の勢力を拡大した。彼の時代には、オスマン帝国の海軍も活躍し、[D]ヨーロッパ諸勢力の連合艦隊を撃破して地中海の制海権を握った。また、オスマン海軍は、インド洋方面ではポルトガルの紅海、ペルシア湾への侵入を阻止した。[E]16世紀後半、オスマン海軍は、地中海における海戦でヨーロッパの連合艦隊に敗北した。しかし、オスマン帝国は東地中海の支配権を保持し続けた。

オスマン帝国は、その後もヨーロッパ諸国への攻勢をつづけたが、[F]17世紀末ころからは守勢にまわった。

設問11 下線部[A]について、ムラト1世はバルカン半島南東部のある都市へ首都を移した。その後エディルネとよばれたこの都市の旧名を答えなさい。

設問12 下線部[A]について、バヤジット1世がニコポリスの戦いで撃破したのはどのようなヨーロッパ勢力であったか。下記の中からもっとも適切なものを選び、記号で答えなさい。

- (a) ハンガリー王を中心にフランス、ドイツ、イギリスなどの戦士が参加した連合軍
- (b) ビザンツ帝国を中心にオーストリア、ハンガリーなどの戦士が参加した連合軍
- (c) ビザンツ帝国を中心にオーストリア、ポーランドなどの戦士が参加した連合軍
- (d) セルビア、ボスニアなどのバルカン半島のスラブ人勢力

設問13 下線部[A]について、バヤジット1世はアナトリアに進出してきたティムールに敗北した。この時の戦いの名称を答えなさい。

設問14 下線部[A]について、メフメト2世はある国家を滅亡させた後、その国家の首都をオスマン帝国の新たな首都とした。このオスマン帝国の新たな首都の名称を新名称で答えなさい。

設問15 下線部[B]について、マムルーク朝を滅亡させ、エジプトを併合したのは何年か。

設問16 下線部[C]について、スレイマン1世がイラク地方などへ勢力を広げる際に敵対したのは何という王朝か。

設問17 下線部[C]について、スレイマン1世の業績ではないものを下記の中から選び、記号で答えなさい。

- (a) フランス王フランソワ1世と同盟を結んだ。
- (b) ハンガリー王ラヨシュ2世に勝利し、ハンガリーへ勢力を拡大した。
- (c) 1529年にウィーン包囲を実施した。
- (d) アラビア半島のメッカ、メディナの支配権を獲得した。

設問18 下線部[D]について、この時の海戦でオスマン海軍と敵対したのはどのような勢力か。

下記の中から選び、記号で答えなさい。

- (a) スペイン、オランダ、ローマ教皇の連合艦隊
- (b) オランダ、ヴェネツィア、ローマ教皇の連合艦隊
- (c) スペイン、ヴェネツィア、ローマ教皇の連合艦隊
- (d) オランダ、ジェノヴァ、ローマ教皇の連合艦隊

設問19 下線部[E]について、この海戦の名称を答えなさい。

設問20 下線部[F]について、オスマン帝国とカルロヴィッツ条約 (1699) を締結したのはどのような勢力か。下記の中から選び、記号で答えなさい。

- (a) フランス、スペイン、ローマ教皇
- (b) スペイン、ハンガリー、ジェノヴァ
- (c) オーストリア、ポーランド、ヴェネツィア
- (d) オランダ、スペイン、ナポリ

[iii] 後金の [ア] は、1636年、国号を清へ改めた。彼は、モンゴル東部から朝鮮半島まで勢力を拡大し、モンゴル人、漢人、朝鮮人などを支配下においた。明朝末期、凶作が続くなかで農民反乱が華北から内陸部一帯へ拡大した。この農民反乱の指導者として台頭した [イ] は、1644年、40万の大軍を率いて北京を占領して明朝を滅亡させた。この時、山海関で清軍と対峙していた明の武将 [ウ] は、清軍と講和を結び、その支援を受けて反乱軍の討伐へ向かった。その結果、反乱軍は敗走し、清軍はこの明の武将をともなって北京に入った。[エ] この清軍は八旗とよばれた独特の兵制を基礎として組織されていた。

清朝は、康熙帝、雍正帝、乾隆帝という3人の皇帝の時代に最盛期をむかえ、広大な領土を形成した。[オ] では、1620年代から [カ] 勢力の交易拠点が築かれていた。明の遺臣の鄭成功は、この勢力を駆逐してその地を反清勢力の基地とした。この鄭氏の支配は3代続いた。だが、結局その地は康熙帝の時代に清朝の領土に併合された。康熙帝は自ら大軍を率いて中央アジアのジュンガルを平定し、モンゴル高原、チベット、青海地方を清朝の領土とした。つぎの雍正帝の時代には、これらの地域に対する支配が確立された。そうした領土拡張の結果、清朝は [キ] の勢力と直面することとなった。そこで、双方の勢力範囲設定のため、康熙帝の時代にはネルチンスク条約が締結され、また雍正帝の時代には [ク] が結ばれた。天山山脈以北のジュンガルと天山山脈以南のイスラーム化した [ケ] の地は、乾隆帝の時代に実施された遠征によって征服された。この一帯は新しい領域という意味で「新疆」とよばれた。また、乾隆帝の時代には、ベトナム、ビルマ (現ミャンマー)、ネパールなどに対する遠征も実施された。こうして、[コ] 18世紀の後半、清朝は中華帝国史上で最大の版図を獲得することとなった。

設問21 空欄[ア]に入る人物名を答えなさい。

設問22 空欄[イ]に入る人物名を答えなさい。

設問23 空欄[ウ]に入る人物名を答えなさい。

設問24 下線部[エ]について、八旗の説明として妥当ではないものを下記の中から選び、記号で答えなさい。

- (a) 清の太宗が満州八旗、蒙古八旗、漢軍八旗を創始した。
- (b) 女真（満州）族の社会制度にもとづいた軍事組織であった。
- (c) 旗と称された八つの軍団で編成された。
- (d) 八旗に所属した武人階級は旗人とよばれ、旗人には旗地という土地が与えられた。

設問25 空欄[オ]に入る地名を答えなさい。

設問26 空欄[カ]に入る国名を答えなさい。

設問27 空欄[キ]に入る国名を答えなさい。

設問28 空欄[ク]に入る条約名を答えなさい。

設問29 空欄[ケ]に入る民族名を答えなさい。

設問30 下線部[コ]について、清朝の統治方法に関する説明として妥当ではないものを下記の中から選び、記号で答えなさい。

- (a) 清朝の広大な領土は、直轄地と藩部に分けて統治された。
- (b) 直轄地は、首都圏の直隸郡と地方の県で構成された。
- (c) 藩部には、清朝に征服・併合されたジュンガル、回部、チベットなどの地域が含まれた。
- (d) 藩部を管理する事務機関として理藩院が設置された。

2 下記の文章を読み設問に答えなさい。

ヨーロッパの王家は婚姻関係で複雑につながっていて、しばしばこれが相続問題など歴史に大きな問題を引き起こしてきた。

ノルマンディー公ウィリアムのノルマン征服に始まるノルマン朝が絶えると血統の関係からフランスからヘンリ2世がはいり(イ)朝を開いた。イギリス領についてはフランス王と対等の国王であったが、フランスの領地についてはフランス王の家臣であったことから、イギリス・フランス関係の複雑化と抗争の原因となった。さらにフランス国王は毛織物産地として重要な(ウ)地方を直接支配下におこうとしたが、この地方に羊毛を輸出して利益をあげていたイギリス王国は、フランスがこの地方に勢力を伸ばすことを阻止しようとした。1328年(エ)王家が断絶するとフランス王フィリップ4世の娘を母に持つイギリス王(カ)は(キ)家のフィリップ6世^オに対して自己のフランス王位継承権を主張し、これを口実^ケに戦端を開いた。はじめイギリス軍が優勢でフランス北西部を奪った。フランス国内は黒死病や(ク)などで荒廃し、シャルル7世のときには王国は崩壊寸前であった。このとき国を救えとの神の託宣^ケを信じた農民の娘があらわれてフランス軍をひきい、(コ)の包囲を破ってイギリス軍を大敗させた。これよりフランスは勢いをもりかえし、戦争はフランスの勝利に終わった。この長期の戦争のためフランスでは諸侯・騎士が没落し、シャルル7世は大商人と結んで財政をたて直し、(シ)を設置したので、中央集権はますます進展した。戦後のイギリスでも王位継承をめぐる内乱が起こり、イギリスの諸侯・騎士は激しく戦って没落した。そのなかから内乱をおさめたヘンリ7世が即位し(ス)朝を開いた。

設問1 下線部アについて、フランス王によりノルマンディー公に封じられたノルマンの首長の名を答えなさい。

設問2 (イ)に当てはまる王朝名を答えなさい。

設問3 (ウ)に当てはまる地方名を答えなさい。

設問4 (エ)に当てはまる王朝名を答えなさい。

設問5 下線部オについて、戦費による財政難を打開するため彼が決定した施策を答えなさい。

設問6 (カ)に当てはまる王名を答えなさい。

設問7 (キ)に当てはまる王朝名を答えなさい。

設問8 (ク)に当てはまる農民反乱の名称を答えなさい。

設問9 下線部ケについて、この娘の名前を答えなさい。

設問10 (コ)に当てはまる都市名を答えなさい。

設問11 下線部サについて、シャルル7世の財務官として活躍した人名を答えなさい。

設問12 (シ)に適する語を答えなさい。

設問13 (ス)に当てはまる王朝名を答えなさい。

後に神聖ローマ帝国皇帝となるマクシミリアンは太子時代にブルゴーニュ公女を妃に迎えた。そのマクシミリアンの孫であるカルロス1世は、ブルゴーニュ公位を継いだ父とスペイン王女フアナの長子として(ウ)の古都ガン(ヘント)に生まれ、カトリック信仰とブルゴーニュ風の宮廷文化のなかで育った。フアナの父フェルナンド5世は(セ)の死後再婚し、フアナにスペイン王位を譲ったが、フアナが夫の死後精神を病んだため摂政を務めた。フェルナンド5世が没すると、その遺言によりカルロス1世はスペイン王位を継ぎ、マクシミリアンの死で神聖ローマ皇帝を継いで、その領土はスペイン・ネーデルラント・ナポリ・ドイツ・オーストリア・南北アメリカ大陸に及ぶ広大なものとなった。フアナの妹キャサリンはイギリス王ヘンリ7世の長男アーサーと結婚したが、翌年アーサーが若死にしたため、その弟ヘンリとの結婚の交渉が両国の間で続けられ、彼がヘンリ8世として即位した年に結婚した。キャサリンの子は女子のメアリを除いていずれも夭折したため、男子の王位継承者を欲したヘンリ8世は離婚を決意し、ひそかにキャサリンの侍女アン＝ブーリンと結婚した。かつて教皇から「信仰の保護者」と称されたヘンリ8世と教皇との関係は悪化し、イギリスの宗教改革の発端となった。カルロス1世の長子フェリペは最初の妻を亡くしてのちイギリスの女王メアリ1世と再婚した。父の引退で神聖ローマ皇帝位は父の弟フェルディナント1世が継いだため、スペイン本国、ナポリ王国、ミラノ公領、ネーデルラント、アメリカ大陸およびフィリピンの植民地など広大な領土を引き継いだ。妻メアリ1世の死後その妹のエリザベス1世に結婚を申し込んだが断られフランスに接近した。母親がポルトガル王家出身であったことから、断絶によって空位となったポルトガル王位をも占め、その支配権は未曾有の広がりを持った。

設問14 (セ)に当てはまる人名を答えなさい。

設問15 下線部ソについて、この際の皇帝選挙でカルロス1世に選挙資金を援助し勝利をもたらした家名を下記から選んで記号で答えなさい。

- a. ブラガンサ家 b. スフォルツァ家 c. ヴィスコンティ家 d. メディチ家
e. ボナパルト家 f. フッガー家 g. シュタウフェン家

設問16 下線部タについて、ヘンリ8世が議会の支持を得て制定、発布し、イギリス国教会の教皇からの分離独立が確定した法の名称を答えなさい。

設問17 下線部チについて、彼が婚姻関係によりハンガリー王位、ペーメン王位を継承することになった出来事の名を答えなさい。

設問18 下線部ツについて、スペインにより展開されたガレオン船による大洋貿易はフィリピンのマニラとどこを結ぶ貿易であったのか、その都市名を答えなさい。

エリザベス1世の死で(ス)朝が断絶すると、曾祖母がヘンリ7世の娘であることからスコットランド王がイギリスに招かれてジェームズ1世となり(テ)朝を開いた。次のチャールズ1世のときピューリタン革命が起こり共和政となったが、クロムウェルが厳格な軍事独裁体制を敷いたため国民の不満が高まり、彼の死後先王の子が国王チャールズ2世として迎えられた。次の王のジェームズ2世はカトリックと絶対王政の復活につとめたので議会はジェームズ2世の長女メアリと夫のオランダ総督ウィレム3世を招いた。1689年の「臣民の権利および自由を宣言し、王位継承を定める法律」では、王位継承の順序を、第1順位メアリ女王の子孫、第2順位メアリの妹アン、第3順位ウィリアム3世の子孫と定めたが、メアリ女王は子供がないまま没し、アンの子も世を去り、ウィリアム3世も再婚の意思がなかったため、このままでは、革命で追放したジェームズ2世のカトリックである末子の系統に王位が移るかもしれないという懸念が生じた。そこで新たに王位継承の順序を定める必要が生まれ王位継承法が制定されることになった。これによりウィリアム3世の死後はアンが、アンの死後はジェームズ1世の孫娘である(ナ)選帝侯妃およびその子孫が王位を継ぐべきことなどが規定された。

設問19 (テ)に当てはまる王朝名を答えなさい。

設問20 下線部トについて、この一般的な名称を答えなさい。

設問21 (ナ)に当てはまる地名を答えなさい。

1700年の秋に病身で子の無いカルロス2世が没すると、遺言によりスペインの全領土は、フランス王ルイ14世(第1王妃がスペイン王女であった)の孫フィリップに譲られた。オーストリア・ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝レオポルト1世はこれを認めず、直ちにフランスと国交断絶したが、この遺贈にはフィリップがフランス王位への要求権を一切放棄するという条件がついていたので、イギリスとオランダは当面これを黙認する態度をとった。しかし、ルイ14世が先の遺言に反してフェリペ5世のフランス王位要求権を主張、さらにスペイン植民地におけるフランス商人の特権をフェリペに認めさせたことから、イギリスとオランダは硬化し、皇帝と結んでフランス・スペインと戦端を開くに至った。父帝レオポルト1世によりスペインの継承者とされた次男は、長兄の死で帝位を継ぎカール6世となり、結局スペイン王位を断念した。カール6世は国事詔書で領土永久不分割と男子相続を宣言したが、その後唯一の男子を失ったため、一転して娘のマリア=テレジアの継承を認めた。しかしカールが死ぬと近隣諸国が彼女の相続に反対してオーストリア継承戦争が起きた。マリア=テレジアのハプスブルク家継承権は承認されたが、プロイセンにシュレジエンを領有されたまま終わった。シュレジエン奪回をめざすマリア=テレジアは、長年敵対関係にあったフランスと同盟し、プロイセンを孤立させる外交政策を展開したため、七年戦争が起こった。

設問22 下線部ニについて、オーストリアが獲得した地域ではないものを下記から選んで、記号で答えなさい。

- a. スペイン領ネーデルラント b. ミラノ c. シチリア
d. ナポリ e. サルディーニャ

設問23 下線部ヌについて、この条約名を答えなさい。

フランスとオーストリアとの関係改善の結果、マリア＝テレジアの末娘マリ＝アントワネットが後のルイ16世に政略結婚で嫁ぎ、フランス革命に巻き込まれることとなった。彼女は当初から反革命工作に終始し、国王一家のオーストリアへの逃亡を図って失敗し、王権への国民の信頼を失墜させた。さらにオーストリアなど列国に武力干渉を要請し、オーストリア・プロイセン連合軍がフランス国内に侵入した。この危機に際し、パリの民衆と全国から集まった義勇軍は、王権を停止させ、新たに成立した男性普通選挙による(ハ)で、王政の廃止、共和政の樹立が宣言された。

設問24 下線部ネについて、この出来事は国王と議会との調停を行っていた人物の急死が関連していたが、その人物を下記から選んで記号で答えなさい。

- a. テュルゴー b. マラー c. ダントン d. ラ＝ファイエット
e. ロベスピエール f. ミラボ g. バブーフ h. シュエイエス

設問25 下線部ノについて、このとき義勇軍が歌ったことで、1795年フランス国歌となった歌の名を答えなさい。

設問26 (ハ)に当てはまる語を答えなさい。

ナポレオンのロシア遠征が失敗に終わると諸国は解放戦争に立ち上がり、パリを占領した。ナポレオンは退位してエルバ島に流され、ルイ16世の弟ルイ18世が王位についてブルボン朝が復活した。1814年から、フランス革命・ナポレオン戦争の戦後処理のため、オスマン帝国を除く全ヨーロッパの支配者が参加する国際会議がウィーンで開かれ、(フ)主義によりフランスやスペインでブルボン王家が復活した。ルイ18世は王党過激派による反動のゆきすぎを抑え、貴族とブルジョワの対立の緩和をはかった。つぎのシャルル10世は、貴族・聖職者を重んじる反動的な政策を推し進めたため、パリに革命が起こってシャルル10世は追放された。代わって自由主義的な貴族として知られていたオルレアン家の(ヘ)が即位した。オルレアン家はルイ14世の弟がオルレアン公になったことに始まる公爵家であった。(ヘ)は少数の銀行家・大ブルジョワジーの利益を優先した政策を進めた。しかしこの時期は、産業革命の進展期にあたり、台頭してきた中小資本家や数を増した労働者らは、(ホ)などを求めて運動を展開した。これに対し、政権を担当したギゾーが弾圧策を続けたため、ついにパリ市民が蜂起すると退位、亡命した。

設問27 下線部ヒについて、この会議に出席した主要国の代表者で間違っているものを下記の中から選び記号で答えなさい。

- a. オーストリア外相メッテルニヒ b. ロシア皇帝アレクサンドル1世
c. イギリス外相カニング d. プロイセン首相ハルデンベルク
e. フランス外相タレーラン

設問28 (フ)に当てはまる語を答えなさい。

設問29 (ヘ)に当てはまる人名を答えなさい。

設問30 (ホ)に当てはまる語を答えなさい。

防衛大学校本科第60期学生

一般採用試験第1次試験問題正誤表

専攻	人文・社会科学
教科	地理歴史
科目	世界史

修正箇所	誤	正
試験問題 8頁中の1 (下から3行目) ①	ヴァティヤピューは [9] <u>ジャイナ教</u> を	ヴァティは [9] <u>上座部仏教</u> を
試験問題 8頁中の7 ② 設問22の解答の選択 肢のe	サルディーニャ	サルデーニャ